

事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施 主体名 (協議会名)	対象地域	事業 実施 年度	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 (年月日)	利用率・ 稼働率	事業効果	対象鳥獣	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	総合振興局・振興 局における評価
										被害金額(万円)				被害面積(ha)					
										現状値 A	実績値 (R3年度) B	目標値 C	達成率 %	現状値 A	実績値 (R3年度) B	目標値 C	達成率 %		
中標津町 (中標津町エ ゾシカ対策 協議会)	中標津町	R1 R2 R3	有害捕獲						エゾシカ	8961	7714	6273	46%	387	366	271	18%	〈エゾシカ〉 計画期間の捕獲活動 については、当初目標 捕獲頭数を上回る実績 をあげることができた。 にもかかわらず、被害 金額・被害面積がいず れも目標達成率が低い ことから、エゾシカの生 息数自体が想定を上 回って増加しているも のと推測される。なお、 被害金額と被害面積の 達成率に差異が生じて いるのは、被害作物の 大半が面積単価の安い 牧草であるためである。 〈カラス〉 3年連続で目標駆除数 を上回った。これに伴 い、近年数多く報告さ れていたカラスによる 牛体への攻撃被害件 数が半減した。 しかしながら、単価の高 い初妊牛への乳房へ の攻撃等で死亡・廃用 となるケースが存在し、 被害額に影響を及ぼし ている。 ※カラス被害に関して は牛体への攻撃や施設 への侵入汚染被害 が主であることから、面 積ではなく件数で集計 しているため、総合的 評価には含めない。	
									カラス	1718	1261	1203	89%						
計										10679	8975	7476	53%	387	366	271	18%		

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
3：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
4：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

(事業内容例)
推進体制の整備
有害捕獲
被害防除
生息環境管理

侵入防止柵

緊急捕獲活動

ジビエ利用拡大

第三者の意見

事業実施主体名	第 三 者			意 見
	所 属	役職名	氏 名	
中標津町(中標津町 エゾシカ対策協議会)		狩猟期間鳥獣保 護監視員	黒 淵 澄 夫	農業被害防止計画の取り組みにおいて、エゾシカによる農業被害(特に畑作地域)や交通事故を抑制する為、継続的に有害捕獲活動を実施した甲斐もあり、北海道の生息数調査において減少傾向にあり、実際エゾシカをみる機会が減ったように思われる。鳥獣被害防止計画上の目標指数や達成率という点においては改善の余地もあるが、エゾシカ被害対策として有害捕獲の推進、捕獲個体の有効活用において実績を評価し、農林業被害減少に向けて今後も期待している。